

広葉樹特集にあたって

北海道の全森林面積のうち67%は天然林であり、そのうち広葉樹林、針広混交林、針葉樹林はそれぞれ61%、32%および7%の面積比率である。広葉樹林には森林施業や山火事、開拓などの影響によって広葉樹が優先したものが多いが、すでに人工的に林種転換され針葉樹林になったもの、開発にともない消滅したものもある。いずれにしても広葉樹林は面積的、資源的にウエイトが大きく、また樹種内容も多様であり、これをどう扱うかは林業における重要課題の一つである。

広葉樹や広葉樹林をどう扱うかの方向づけは広葉樹をとりまく諸条件、例えば、林業の国際化、工業化、経済成長などの社会的経済的要因、広葉樹の成立条件、生態的特性、針葉樹と対比した質的な有利性などの生物学的要因および針葉樹重点の造林政策と広葉樹林施業との調和の問題などを解析し、それらを総合してえられるとおもわれるが、現状は条件の解析も体系的にまとまっているとはいえない。

しかし、広葉樹問題で共通的なものは木材生産（優良大径材）と森林の構成要素として広葉樹が森林の公益的機能や森林保護、地力維持にはたす役割の評価に関するものである。木材生産に関係しては1)針葉樹の人工林を含めた針広混交林において優良広葉樹材を保続生産する施業法、2)山火再生産林などの広葉樹林の施業法の問題がある。森林の公益的機能や森林保護、地力維持に関係しては広葉樹の混交が水源涵養機能や国土保全および森林の物質循環、病虫害の大発生の抑制効果についての評価に関するものである。

現在の広葉樹問題の背景は、略奪的採取と放置再生産にゆだねられてきた優良広葉樹材資源が質的、量的に低下すると予想されていること、山火再生産林など低質広葉樹林の人工造林による針葉樹への林種転換が森林生態を無視していることへの不安、優良材となる可能性が高い幼齢木まで皆伐することへの反省などであろう。

当場の最近の広葉樹関係の研究はほぼうえにのべた広葉樹問題を前提にして進められている。今回の広葉樹特集は現在実施中の研究課題のうち成果がえられたものと、直接、業務に役立つとおもわれるものを収録した。

39号の「広葉樹の保育」は山火再生産林などの広葉樹林の保育についてのべたものである。とくに収量—密度図による林分の本数、材積、直径などの関係を定量的にあらわす方法と間伐による収穫予測についてのべている。「混交林と針葉樹単純林のハマキガとその天敵」は、針広混交が虫害の大発生抑制にはたす効果についてのべている。「治山用樹種の特徴と見分け方」は治山用に人工植栽されている広葉樹の形態的特徴をのべたものである。

40号には広葉樹資源の現況と将来展望 広葉樹林における間伐施業事例のほか広葉樹の人工育成についてのいくつかの課題、また、防災林造成と緑化樹としての広葉樹の評価に関する記事を予定している。それぞれが個々の技術分野での論議であるが参考にして頂き、ご批判とご示唆を頂ければ幸いである。

編集委員会 (文責 畠山 末吉)